

ASEAN グローバルプログラムで 得たもの

青木 龍 誠
Ryusei AOKI
物質化学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて、ベトナムのハノイ、シンガポールにて10日間のASEANグローバルプログラムに参加した。具体的な日程を表1にまとめた。

表1 研修日程

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 8月28日(火) | 出国, ハノイ着 |
| 8月29日(水) | 鈴木栄光堂工場他の見学 |
| 8月30日(木) | ハノイ工業大学でのPBL活動 |
| 8月31日(金) | |
| 9月1日(土) | 戦勝記念博物館訪問など |
| 9月2日(日) | 移動, WASABIにて講演会 |
| 9月3日(月) | 南洋理工大学での各種プログラム |
| 9月4日(火) | Google社での講演会, ビジネスパーソンとの交流会, 加藤氏の講演会 |
| 9月5・6日 | 自由時間, 帰国 |

2. 参加目的

私がASEANグローバルプログラムに参加した目的は以下のようなものだった。

1つ目は、「自分の英語力を知る」ことである。私は、中学生のときから今まで英語の勉強をしてきたが、海外に行くこともなく外国の方と話す機会もなく、自分の英語力について評価、レベルの把握ができてないと感じていた。だから、このプログラムを通して現地の人と積極的にコミュニケーションをとり英語力向上をはかることを目的とした。

2つ目は「異文化を知る」ことであった。ベトナム・シンガポールでは文化や価値観を現地の人々と交流することにより自分の視野を広げことを目標と

した。

以上2つを目的に掲げ、少しでも多くのことを学べるように積極的に行動することを心がけた。

3. 研修内容

今回のプログラムではたくさんの講演会や企業の人の現場の話聞く機会がたくさんあった。その中で海外を拠点に働くことで必要なことやきっかけを聞き、私は自分の将来の考え方や思いと比較、考え直すことが多かった。自分の将来についてこんなにも考えたことは初めてだと思う。また、ベトナム人学生とのPBL活動も2日間行った。事前学習も行ったため、このプログラムでは一番学びが多かった。そこで、このベトナム人学生とのPBLについて以下に詳しく述べる。

今回は「栄光堂の飴をベトナム市場で大ヒットさせる」をテーマとし、日本人5名に対してハノイ工業大学の学生2名が加わり、チーム(全体で8チーム)を作って現地での共同作業を2日間にかけて行った。ベトナム人学生は英語を流暢に話し、日本人学生がついていけない場面があった。しかし、徐々にジェスチャーや片言の英語であっても必死に自分の思いを伝えられるようになり、成長を感じた。また、キャンパス内でのアンケート調査でもベトナム人学生を中心に200人近くのアンケートを収集することができた。ベトナム人学生に教えてもらったベトナム語も大活躍であった。

しかしながら、アンケート結果を集計すると、事前学習で立てた仮説を立証するために立てた質問も真逆の結果となった。これは本当に苦勞し、ホテルに戻りグループの皆と意見を出し合うなどした。1日目のアンケートに少し修正を加え、2日目も頑張ろうとグループのみんなで励ましあった。2日目は、追加のアンケート調査を行った後に時間のなかでプレゼン資料をまとめ、大学にて英語のプレゼン、ホテルにて鈴木栄光堂の現地の社長様とベトナムでweb広告を呼びかけているマイクロアド社の社長様に対して最終プレゼンを行った。

大学でのプレゼン発表の資料作りではベトナム人学生と作成した。このアンケートの意図を伝えることに苦労はしたが、時間の余裕がないなかみんなで粘り強く行えたことで成長を感じた。ベトナム人学生と一緒に昼食を食べたり笑い合ったり、今まで人見知りで消極的な自分では考えられないことで、このプログラムに参加してよかったと思えた。ホテルでのプレゼンでは、日本人だけで行った。予想以上に緊張したが自分たちのグループは「売り方・広告方法を工夫する」方向性に定めプレゼンを行った。他のグループは、餛飩の味を工夫したり、餛飩を溶かして飲めたりという奇抜なアイデアもあり、自分たちのグループでも「すげえ」と声が上がっていた。どのグループもアピールポイントがあり、この事前学習を含めた PBL 活動の成果が出ていたと思う。

PBL 活動を通して、自分の意見を伝える難しさも学べた。ベトナム人学生との交流では自分英語力のなさを痛感し、日本人学生にはこのプログラムで初めて出会い、積極的に喋ろうと心掛けてもなかなか打ち解けることもできなかったが、それでも最後のプレゼン発表ぐらいにはみんなと楽しんで発表できたので良かった。チームで1つの目標を達成するために協力する楽しさに気がついた。



ベトナム人学生と臨んだ PBL の修了式

4. おわりに

私は、ASEAN グローバルプログラムに参加し多くのことを学び、感じ、自分に足りないもの、直すべきところ、自分自身を見つめ直すきっかけとなった。例えば働き方の面でも「定時で帰るのが当たり前」とビジネスパーソン方が話しており、話題の働き方改革についても、日本より進んでいると感じた。ハノイ工業大学・南洋理工大学では、ベトナム・シンガポール人学生ともにハングリー精神を日本の学生より感じた。なんとなく大学に入学した自分に対して、一つの目標に向かいいたるところで勉強していると感じた。また、講義でも意見をたくさん言い合い前の方に座っていた。これらのことは、当り前のことで、ぼんやりと大学過ごすのではなく自分で将来を切り拓いていかなければならないと改めて思えた。さらに、ベトナム人学生も日本人と同様に英語は第二言語だが、恥ずかしいぐらい何も聞き取ることすら話すこともできず、英語力にも差があると思った。発音が悪く伝わらないこともあり、とても悔しかった。これからも English Central のオンライン学習等を活用し、英会話に力を入れて学習していきたい。

この10日間について私は、ただ受け身の研修ではなかったことが良かった。このプログラムのおかげで視野が広くなり、人生の選択肢が増えたように感じた。これから大学で勉強していく中で、これは何の役に立つのだろうと意識するようにし将来のビジョンを立てながら勉強していきたい。海外についてたくさん興味を持てたし、ベトナム・シンガポール以外の他の国にも行ってみたいという興味が湧いてきたので、実際に行って自分の目でまだ見たことがない世界を見てみたいと思う。

とても多くのことを学ぶことができたこのプログラムでお世話になった皆様に、心から感謝したい。